

「復習問題」 略解

- 1) a) 変形されてできる階段行列は

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

これより、 A の階数は 3.

- b) $c_1\vec{a}_1 + c_2\vec{a}_2 + c_3\vec{a}_3 + c_4\vec{a}_4 = \vec{0}$ の解を求めると、a) の階段行列を参照して $c_1 = t, c_2 = -2t, c_3 = t, c_4 = 0$ (t は任意の実数) という解を得る. ここで $t = 1$ とおけば、 $\vec{a}_1 - 2\vec{a}_2 + \vec{a}_3 = \vec{0}$ という 1 次関係式を得る. したがって、 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4$ は 1 次従属.

- 2) $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4, \vec{a}_5$ を並べてできる行列 $\begin{pmatrix} 1 & 6 & 3 & 3 & 1 \\ 1 & -1 & -4 & 0 & 3 \\ 2 & -1 & -7 & 1 & 5 \\ -1 & 4 & 7 & 1 & -3 \end{pmatrix}$ を基本変形によ

って階段行列に変形すると、(計算は少々複雑で、手計算でやる場合は工夫が必要だが) $\begin{pmatrix} 1 & 0 & -3 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ となる. この行列の階数は 4 なので、 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4, \vec{a}_5$ のうち、1 次

独立なものの最大個数は 4. 基本変形の結果から、問題 1 と同様に、 $3\vec{a}_1 - \vec{a}_2 + \vec{a}_3 = \vec{0}$ が得られ、これより、 $\vec{a}_3 = -2\vec{a}_1 + \vec{a}_2$ となる. \vec{a}_3 を除いた、 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_4, \vec{a}_5$ は 1 次独立なベクトルの組となる.

- 3) a) 基本変形後の行列を参照して、 $c_4 = t$ とおくと、 $c_1 = 2t, c_2 = -5t, c_3 = -2t$ となる. $t = 1$ とおけば、 $2\vec{a}_1 - 5\vec{a}_2 - 2\vec{a}_3 + \vec{a}_4 = \vec{0}$ という 1 次関係式があることがわかる. したがって、 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4$ は 1 次従属.
- b) b) で求めた 1 次関係式より $\vec{a}_4 = -2\vec{a}_1 + 5\vec{a}_2 + 2\vec{a}_3$ とあらわせるので、 $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4) = (\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \cdot)$. また A の基本変形は $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3$ が 1 次独立であることも示しているの、 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3$ は $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4)$ の基底となる.
- c) c) で求めた基底は 3 つのベクトルからなるので、 $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4)$ の次元は 3.

- 4) $P = \begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと、

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -4 \\ 2 & 7 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 5 \end{pmatrix}$$

5) a) $P = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと、 $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$

b) これは、対角化不可能な行列でした. これはこちらのミスで、この問題は今回の試験の範囲外です.

- 6) $y = -\frac{1}{2}x$ と平行なベクトル $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$ はこの対称移動で不変であり、 $y = -\frac{1}{2}x$ と垂直なベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ は $-\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ に移る. そこで、 $P = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ とおき、求める行列を A とおくと $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ となる. ゆえに、

$$A = P \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} P^{-1} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 3 & -4 \\ -4 & -3 \end{pmatrix}$$

- 7) a) $\begin{vmatrix} 1 & 1 & 2 \\ -1 & 0 & -1 \\ -1 & -1 & -1 \end{vmatrix} = 1 \neq 0$ だから、 $\vec{f}_1, \vec{f}_2, \vec{f}_3$ は \mathbf{R}^3 の基底である.

b) $P^{-1} \begin{pmatrix} -1 & -1 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$

c) b) と同じ. (タイプミス)

- d) 固有ベクトル $\vec{f}_1, \vec{f}_2, \vec{f}_3$ に対する固有値がそれぞれ 1, -1, 2 であるから、 $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ となるはず.

e) $A = P \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix} P^{-1} = \begin{pmatrix} 3 & -2 & 4 \\ -1 & 1 & -1 \\ -1 & 2 & -2 \end{pmatrix}$

8) a) $M = \begin{pmatrix} 0.7 & 0.1 & 0.2 \\ 0.2 & 0.8 & 0.1 \\ 0.1 & 0.1 & 0.1 \end{pmatrix}$

- b) 固有値 1 の固有ベクトルを求めると $t \begin{pmatrix} 3 \\ 3 \\ 5 \end{pmatrix}$ となる. 各社のシェアは 3 : 3 : 5 となる. すなわち、約 27%, 27%, 45% の割合となる.